Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-05-09

ライトニングトーク「学生を対象としたILL費用支援の取り組み」

野村，明日香

(Citation)
オンラインフォーラム『ILL/DD サービス 2.0 へ向けて』（令和 4 年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業）

(Issue Date)
2023-01-27

(Resource Type)
conference object

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100478598

令和４年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業
フォーラム「ILL/DDサービス2.0へ向けて」

事例報告（ライトニングトーク）
学生を対象としたILL費用支援の取り組み

2023.1.27

滋賀大学附属図書館教育学部分館
野村明日香
tosyo@edu.shiga-u.ac.jp

SHIGA UNIVERSITY

滋賀大学の学部構成

彦根キャンパス （附属図書館本館）	経済学部・経済学研究科 データサイエンス学部・データサイエンス研究科
大津キャンパス （附属図書館教育学部分館）	教育学部・教育学研究科（教職大学院）・特別支援教育専攻科

→各キャンパスの図書館で2014年秋から学生ILL料金の費用支援を開始
「文献取り寄せサービスの費用支援プログラム」

サービス開始の背景

目的

- 学生サービスの充実（卒論・修論で活用してほしい）

導入時に説明した点

- 学生：自己負担なく（現金を用意する手間もなく）、スムーズに文献入手を行える
- 教員：学生の負担を気にせず、より充実した指導が行える
- 図書館：利用の増加が見込める
- 事務部門（経理）：現金取扱業務の削減が見込める

文献取り寄せサービスの費用支援プログラム（概要）

- 開始時期
  2014年10月から両キャンパス図書館で試行→翌年度に本格実施
- 財源
  図書館資料費
- 費用支援の対象
  公費で支払い可能な機関への依頼（NII料金相殺／NDL／その他 ）
- サービス対象期間
  4月～1月（2･3月は私費）

教育学部分館の実施内容（件数による制限）

年度		文献複写	図書借用
2014（試行）	10月～1月	無料（件数制限なし）	無料（件数制限なし）
2015	4月～1月（以下の期間を除く）	無料（1か月1人5件以内）	往路のみ学生負担（1か月1人3冊以内）
	9/28～12/17	無料（1か月1人10件以内）	無料（1か月1人3冊以内）
2016～2017	4月～9月	無料（1か月1人5件以内）	無料（1か月1人2冊以内）
	10月～1月	無料（1か月1人10件以内）	無料（1か月1人4冊以内）
2018～2022	4月～9月	無料（1か月1人5件以内）	往路のみ学生負担（1か月1人2冊以内）
	10月～1月	無料（1か月1人10件以内）	往路のみ学生負担（1か月1人4冊以内）

※試行時より大津キャンパス全学生を対象として実施
※2018年度に図書借用において往路のみ学生負担としたのは、2017年度の実績額が予算額に迫った一方で、
翌年度の図書館資料費の減額と送料の値上がりが見込まれたため

実績（教育学部分館）

試行の結果（2014年10月～2015年1月）

文献複写：申込件数　107件→511件（前年度同時期比）

図書借用：申込件数　12件→154件（前年度同時期比）

件数制限を設けて本格実施（2015年～）

文献複写：申込件数　概ね1000件前後で推移
→2018・2019年度に減少傾向
→2020年度より極端に減少

図書借用：申込件数　概ね200件前後で推移
→2018年度に片道送料を学生負担としたことで減少
→2020年度より極端に減少

【参考】本館の実施内容（金額・学年による制限）

年度	対象者	年間上限額
2014/10～2017	彦根キャンパス3・4年、院生	学部生2,000円、院生5,000円
2018～2020	彦根キャンパス3・4年、院生	学部生3,000円、院生5,000円
2021～2022	彦根キャンパス全学生	学部生3,000円、院生5,000円

※年間上限額は文献複写・図書借用の両方を含む

感じていること

- ILLの無償化は、学生の文献入手における心理的ハードルを下げる
  ただ、制度として定着しているので、学生は「無料」であることを重視する

- 文献取り寄せサービスの費用支援プログラムは、学生には図書館利用のきっかけになり、図書館側では他のサービスの充実に展開する可能性もある（講習会、選書、教員とのつながり）